

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 122 号

2011年9月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：西原 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—9月03日（土）「宇部市地球温暖化対策ネットワーク」主催のカーボンオフセットに関するセミナー（宇部市総合福祉会館）に、西原会員、前田会員、伊原会員、工藤会員及び事務局計5名が出席しました。

—9月04日（日）湿地帯のエコアップ（スゲ草間引き）とU字溝の運搬を行い、散策橋の破損部分をこのU字溝15個で飛び石橋タイプで取り付けました。
参加者は14名でした。

—9月12日（月）「駐車場の草刈」は外部の方により費用もかかりましたが終わりました。
本日、吉富会員と事務局で焼却処分をして完了しました。

—9月17日（土）①エコアップは湿地帯のスゲ草の継続間引きを行っています。
②維持活動はU字溝の運搬400mmX600Wを38個を善和より運搬保存しました。
湿地帯の散策橋の修復と水路溝に使用します。
③市道からビオトープ入口の坂道の土砂流出を修復しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

11月末 宇部探検倶楽部 山本美緒さんから見学予定の連絡あり

◎行事

—10月09日（日）親子観察会（秋の昆虫）

—10月15日（土）稲作体験稲刈り（親子観察会主催。二俣瀬子供会）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありませんでした。

4. 会員の声 「車地のナツツバキ 宇部市指定天然記念物」（田村 勝芳 記）

先日宇部市立図書館で末廣雄次先生が最近出版された宇部市の野外植物分布の特徴およびアジア各地との関連性という本を読みました。この本は末廣先生がライフワークとして植物調査をされた成果がまとめられたものです。

この中に車地のナツツバキのことが記載されていたので紹介します。

このナツツバキはビオトープから約1km山側に入った新幹線路の近くにあり樹齢は約

100年、樹高は10mの巨樹であり毎年7月には径5cmの白い花を沢山つけています。二俣瀬には他にも数個所の群落があるとのこと。

ナツツバキは沙羅双樹の異名があり園芸的な観賞価値が高くこの地域の植物として保存すべき重要な遺産とされ平成16年に宇部市指定天然記念物に指定されました。この巨樹と原田事務局長と一緒に写った写真も掲載されており、満開のころには会員の皆さんも一度見学をされたら如何ですか。

5. 親子自然観察会（今月はありませんでした）

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

（40）ヒメアカネ（トンボ科・アカネ属）*Sympetrum parvulum*

わりと小型のアカトンボで、北海道から南西諸島北部まで見られ、丘陵地、低山地の草丈の低い水性植物の茂る湿地などに生息域を持ちます。6月下旬頃から羽化を始め、7月～11月頃まで見られます。ハッチョウトンボの生息する湿地などにもおり、発生地近くの林縁部の農道や作業道、林道などでもよく見られます。足元にいるときには見逃してしまいます。



ヒメアカネの（♂）



ヒメアカネの（♀）



羽化直後のヒメアカネ（♂）



ヒメアカネの連結交尾

7. 会よりの連絡事項（事務局より）

- 1) 緊急連絡11月6日の活動日は宇部市政90周年行事「宇部まつり」と重なりますので11月5日（土曜日）に変更致します
- 2) 修復用U字溝は、前回は千陽工業と田辺商会、いずれも二俣瀬の業者さんからの手配戴いたものです。謝礼をいたしますお知らせまで。

8. 編集後記

里山ビオトープ二俣瀬の地権者が宇部市に変わった。今後の維持管理については宇部市よりうべ環境コミュニティ経由で里山ビオトープ二俣瀬をつくる会に依頼されるであろうと聞いている。内容は今まで通りと聞いているが、もし「安全に自然観察が出来るように」と曖昧な条件が付いてくると、安全を確保するということは非常に難しいと思えてくる。過去約10年間何も大きな事故もなく、安全確保は自己責任ですよと伝えてきた。「安全に！安全に！」と言われるなら、ロープを張って立入禁止とするか、沢山の警告看板を設置することになりかねない。これでは何のためのビオトープか、景観も台無しになる。会員がすべきことを、今一度議論して、何が出来て、何が出来ないかをはっきりさせて、もし依頼された時に条件として示すことも必要かもしれない。何かが起こってからでは遅いので、話し合いは必要では思っています。私の思いが心配しすぎと危惧に終わればそれに越したことはありませんが。

（西原 一誠 記）